



育成を目指す資質・能力

- 知識及び技能** 身近な地域や市町村区の地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 思考力、判断力、表現力等** 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わりを選択・判断したことを表現する力を養う。
- 学びに向かう力、人間性等** 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

単元の目標

- 地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地域の様子の移り変わりの特色や相互の関連、意味を考える力、社会科に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- 地域の様子の移り変わりについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や判断を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の確保について自分たちにできることを考え協力しようとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

単元を貫く問い わたしたちの暮らしは昔から今へとどのように変わってきたのだろう。

12/2 教材研究会

協議の柱

- ①単元を貫く問いで目標を達成するために、この単元構想で良いのか。
- ②単元構想について、めざす児童の姿に迫るためには、この流れと問いで良いのか。

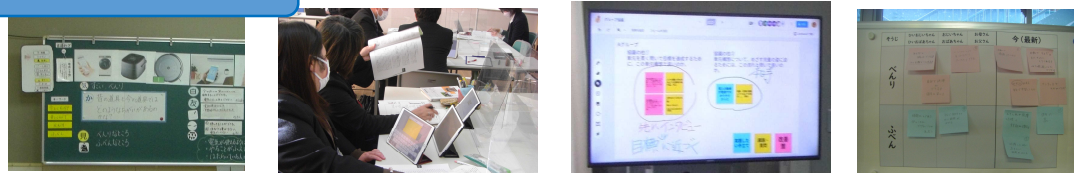
葉山小 授業づくりについて

【校内での事前研究で話し合われた改善策より】

- ①単元構想図の中での本時の配置
 - ・道具の変遷が見えにくい
 - 道具カードの並べ替え後の9時間目を本時とする。
- ②本時の内容について
 - ・昔の道具と最新家電を比較した資料での話し合い活動
 - 道具年表と最新家電の動画・写真を資料として提示
- ③本時のまとめ
 - ・予想を引き出す
 - 「道具は昔から今へ、人々の暮らしに合わせて人々の願いによって変化してきたのではないか。」

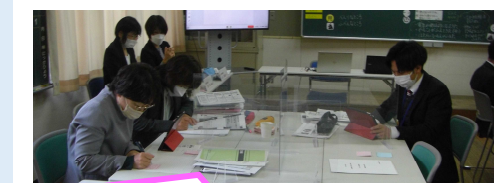
研究協議

研究協議の様子



世代ごとの道具の分け方がわからなかった。今と昔の捉え方が難しい。(元号やおじいさん等)

興味がわくような動画が使われていた。



先にインタビューをして、道具の変化を整理しておく。

道具調べから暮らしについて考えている。

【模擬授業より】

- ☆模擬授業の流れ
 - ①前時の振り返りをする。(昔の道具体験)
 - ②今の生活家電 (IOT 家電) について知る。[動画視聴]
 - ③課題を確認する。「昔の道具と今の道具ではどのような違いがあるのだろうか?」
 - ④洗濯・料理・掃除に分かれて、それぞれの道具の変化について考える。
 - ⑤道具が変わって他に変わったことはあるか考える。
 - ⑥考察
 - ⑦まとめ
- ☆参加者からの意見
 - ・ICTを活用した動画視聴や話し合い活動等工夫がされていた。
 - ・良さを整理する際に、昔と今の区分(世代区分)がわかりにくい。
 - ・人々の暮らしと関連付けることが難しい。
- ☆改善策
 - ①道具年表で世代区分が分かるように表示する。
 - ②昔と今を比較する際、班で話し合い考えを引き出す。
 - ③学習問題に対する予想を立て、次時につなげる。



【単元構想について】 本単元は育成を目指す資質・能力で示されているように「地域の様子の移り変わり」について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける単元である。交通や公共施設、土地利用や人口、道具など時期による違いに着目することが重要である。既習の「身近な地域や市の様子」で見学した施設の情報や作成した地図の活用、単元末での市の将来について考える場面では、ゲストティーチャーの活用も有効である。

【参加者アンケートより】 教材研究では、始めに付いた力を明確にすることやゴールイメージを確かめることの大切さを改めて感じました。また、学年が上がることで捉える対象が大きくなり、身近さを感じる事が難しくなるので、中学年の時期に、生活とのつながりについて考える力を身に付けさせたいと感じました。

1/25 授業研究会

協議の柱

- ①本時の目標を達成できる単元の流れになっていたか。
- ②道具の変化と人々の暮らしの変化を関連付けて予想を立てることができたか。

教材研究会からの改善点

- ①道具年表に世代区分が分かるように表示する。(元号、おじいさん等)
- ②昔と今の道具の良さを比較→ふせんに書き出し、班で話し合いまとめる。
- ③調べる道具の種類 (3種類) →洗濯・炊飯・暖房・掃除・冷蔵 (5種類)

本時の流れ (9/20 時間)

1. 前時の振り返りをする。
2. 今の生活家電 (IOT 家電) について知る。(動画視聴)
3. 本時の問いを確認する。
「道具は昔から今へとどうして変わってきたのかな?」
4. 洗濯・炊飯・暖房・掃除・冷蔵に分かれて、それぞれの道具の変化について考える。
5. 昔と今の道具の良さをそれぞれまとめる。
6. 考察
7. まとめ
8. 振り返り

研究協議

道具の変化は捉えられていたが、人々の暮らしの変化が見えにくかった。

Aグループ 令和4年度 社会科授業づくり講座 第2回授業研究会 研究協議

①本時の目標を達成できる単元の流れになっていたか。

②道具の変化と暮らしの変化を関連付けて予想を立てることができたか。

<p>事前に、昔の道具について調べ、使い方を学んでおくことができた。</p> <p>動画を再生して、動きを確認する。</p> <p>子どもが実際に道具を使ってみる。</p>	<p>本時に入ると、振り返りをして、入った道具の便利さや不便さを共有する。</p> <p>動画を再生して、動きを確認する。</p> <p>子どもが実際に道具を使ってみる。</p>	<p>今と昔の道具を比べる表</p> <p>色使い</p> <p>時代の背景</p> <p>子どもたちのことばでまとめる</p>
--	---	--

一日の生活の様子が分かる資料の提示やグループごとの共有もあればよい。

「比べて分かることは何だろう?」という問いにするのはどうでしょう。

体験していたので、良さや不便が実感できていた。

振り返りを生かした導入と課題設定ができていた。

【指導官 大妻女子大学 家政学部児童学科 澤井 陽介 教授 より】

1. 単元について
 - ・学習問題や課題文を作るのではなく、「何を調べていこうか」と方向づけること
 - ・予想を立てることが大事→子どもが主体性をもって考え始め、確かめていくこと
 - ・社会科での主体性のある授業→本気で考える、掘り下げること
 - 自分で選ぶ・決める (学習調整)、見直しをもって課題に向かうこと
 - 自分の見直しを自力で振り返ること
 - ・教科の特色を上乗せする→社会的事象の意味と特色に思いをはせる、思考を深めること
 - ・焦点化して、詳しく調べる時間が大切→「例えば、つまり…」(具体から変化がわかる)
 - ・*「ボタン一つで暮らしが楽になったということは、どういうこと?」と考え、事実寄り添ってまとめる (社会科として深める場面をどこにもつなげていく)
 - ・子どもの主体性と教師の指導性のベストミックス
2. 本時について
 - ・45分をどんな問いでつなげていくかが大切
 - ・時期による違いに着目→移り変わりの理解 (3世代(元号)くらいを比較→だんだん変わってきた)→単元の時間配分の検討
 - ・目標をどこで実現するか(評価場面)→一人一人に書かせる(人々の思いとは何か、暮らしのどんな変化なのか)

【参加者アンケートより】

・社会科における授業づくりは、「選ぶ」「自分で決める」ということが大切だと学びました。方向付けるための大きな問いである学習問題の大切さについて改めて感じました。

・問いを児童と共有することに加え、その問いをどのように深めたり調べたりするかを、授業の中で考えることで、児童の「つまり」にたどり着く力を高められると思いました。